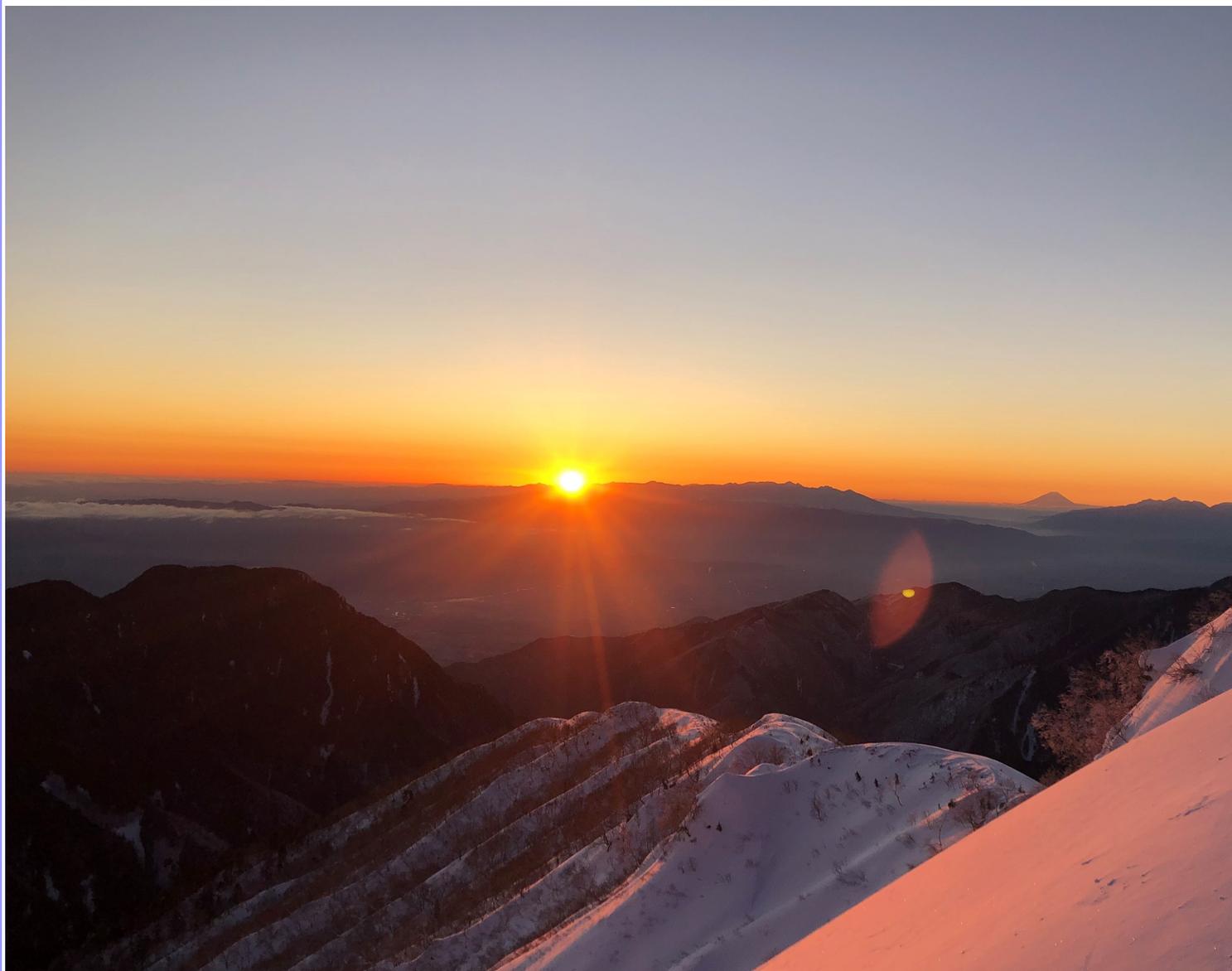


誠和会だより

発行責任者 医療法人誠和会 理事長 和田徹也



2021年1月発行



2020年元旦 北アルプス燕山荘からの初日の出

< 和田病院 基本理念 >

「個人の尊厳と人間愛に基づく医療を目指す」

< 基本方針 >

1. 日向入郷医療圏において、救急医療、災害医療、脳卒中を中心とした安全で質の高い医療の提供に努めます
2. チーム医療を推進し、患者様が安心して療養生活ができる療養環境を提供します
3. 地域住民の健康増進と疾病予防に寄与します
4. 医療安全対策、個人情報保護に努めます
5. 患者様の個性性を尊重し、患者様中心の医療を提供します
6. 働きやすくやがりの持てる職場環境作りに努めます

CONTENTS

・ 医療法人誠和会 和田病院基本理念	1
・ 2021年 初頭のご挨拶	2
・ 各部署長から 新年のご挨拶	3
・ 新型コロナウイルス感染 症(COVID-19)と予防	4



2021年初頭のご挨拶

理事長 和田徹也

あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策で明け暮れた一年でした。これまで経験したことのない生活を強いられました。マスク不要の“普通の日常”がどれほど素晴らしいことだったのか痛感させられたのは私だけではないでしょう。

今年に入ってから、宮崎県においても急激に感染が拡大し、医療体制のひっ迫が懸念されています。未だ終息への道筋は不透明なままです。

このウイルスは、誰もがいつどこで感染するかわかりません。当院でも、職員の感染が発生しましたが、患者さんをはじめ他の職員への拡大は免れました。このことは、日ごろから徹底的な感染対策をとってきたことによる結果だと実感しています。しかしながら、そこまで感染対策を徹底してもなお、感染がありうるという事態を重く受け止め、今後ともなお一層気を引き締めて、市民の皆さんが安心して受診・利用できる医療体制の充実に努めてまいります。



ウイルスと人間の「絆」

10年前の東日本大震災での悲劇と、その間の不安感は壮絶でした。

その時は、人と人との「絆」感で救われた記憶があります。孤立し、うつ状態であっても人と人との温かい接触で立ち直ったことが思い起こされます。言葉だけではなく、手を握りあったり、抱き合うことで救われました。

ところが、今回のコロナ禍の中では、救いであったはずの「絆」の行為そのものが命を奪いかねないのです。

ウイルスで人間社会は激変しました。今までの常識であったグローバリゼーションまで危険視され、今や世界的に分断がすすんでいます。

しかし、パンデミックの中では、世界が連携して対応しないと人類の大きなダメージに至ることになります。

人対人の関係でも仕事の在り方でもコロナ禍により分断に近い状況を余儀なくされていますが、知恵を出し合い、工夫しながら距離をとりながらも決して結びつきを失わないようにしたいものです。

これからも、新種の感染症が現れるでしょうが、人類は過去にも天然痘、ペスト、結核、SARS、MERS、エイズなどを知恵と忍耐で克服してきました。この新型コロナウイルスも必ずや人類は克服することができると確信しています。そのためにも、今は一人一人が手洗い、マスク着用、換気などはもとより、新しい生活様式を取り入れながら不要不急の交流を避ける取組みを根気よく継続しましょう。

終わりに、生活様式がどう変わろうと人としての「絆」を持ち続けようではありませんか。

新年のご挨拶

病院長 伊藤康司



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては本年を健やかに迎えのことと存じます。

昨年は世界中が新型コロナウイルス感染症の拡大に翻弄された一年でした。日本でも政府による緊急事態宣言の発出、不要不急の外出や移動制限などこれまで我々が経験したことのない生活を余儀なくされました。

当院におきましても院内感染予防対策として患者さんとそのご家族、関係各位に面会制限等の業務形態の変更を行ったことに伴いご迷惑をお掛け致しました。皆様の多大なる御協力を得ることができ、無事に新しい年を迎える事が出来ましたことにこの場をお借りして心から御礼を申し上げます。

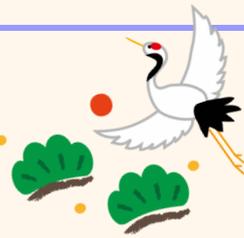
今年も引き続き、基本に忠実に標準感染予防策を徹底し、他疾患治療目的に入院を必要とされる患者さんに感染が広がることがないように努めていく所存でございます。歴史を振り返ってみましても過去に起こった感染症のパンデミックは必ず収束する時が訪れました。一日も早く新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、日常生活を取り戻し、そして社会の活性化が得られますように願っております。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶



事務局長
井上 和彦

あけましておめでとうございます。昨年12月に発生しました当院職員の新型コロナウイルス感染について、改めてお詫び申し上げます。また、発生直後からお見舞いやご支援をいただいた患者さまやその他多くの関係者の皆さま、心よりお礼申し上げます。当院では今後もより一層の感染防止対策を講じてまいりますので、今後とも皆さま方のご理解とご協力をお願いいたします。



看護部長
富山 由美

謹んで初春のお慶びを申し上げます。昨年は医療有事下における「正しい情報の共有と集団での決断」の重要性を痛感した年でした。今年は丑年。先を急がず目のことを着実に進めることが、将来の成功につながっていくと言われる年です。一步一步確実に前進し、地域の皆さん、そして私たち自身にとって明るい年となりますよう祈念致します。



診療技術部長
荒瀬 浩之

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナ禍にて右往左往した1年でしたが、今年は正しく恐れて、1歩でも多く前進できる1年にしたいと思います。まだまだ予断を許さない状況ですが、体調管理や感染対策を継続しつつも、皆様が笑顔で元気に過ごせる1年でありますように願います。本年もよろしくお願い致します。



臨床薬剤科長
松澤 伸治

あけましておめでとうございます。昨年は医薬品に関する法律の改正があり処方せんの電子化やオンラインのお薬の説明などについて記載されました。これから数年かけて変わっていく事になりますが、利便性と共に安全性も向上できるように取り組んで参ります。本年も宜しくお願い致します。



採用企画室長
黒木 雅代

明けましておめでとうございます。採用担当の任に就き8ヶ月。コロナ禍において対面での採用活動が難しい中、訪問の際に快く対応いただいた各種学校の皆様に感謝申し上げます。又、地域の関係機関の方々より情報を頂き手探りながら採用活動が行えました。今年も役割を果たすべく努力して参ります。



感染対策室長
児玉 崇

あけましておめでとうございます。昨年はすべてがコロナによって制限された1年となってしまうました。見えない敵との戦いです。職員のコロナ感染を経験したからこそ私たちは怖さを知っています。感染しないさせないために、職員1人1人がこれまで以上に感染対策の徹底に努めて参ります。今年もよろしくお願い致します。



盛年館事務長
坂本 博樹

新年明けましておめでとうございます。昨年は、当館ご利用の皆様には、感染症対策にてご不便をお願いするばかりの年でした。今年もまだ予断を許さない状況ですが、当館が担うべき在宅復帰・支援施設としての役割を果たしつつ、地域の皆様に信頼される事業を行って参りたいと思いますので、今年も宜しく願い申し上げます。



地域連携室長
三輪 晴美

新年あけましておめでとうございます。昨年は世界的流行となった新型コロナウイルスにどの業界も翻弄された一年でした。まだまだ感染対策を講じた生活は続きますが当事者意識を持ち他者への思いやりを忘れない言動を心がけたいと思います。また、関係機関と新たな手段を活用し医療連携がスムーズに行えるよう努めて参ります。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と予防

感染対策室長 児玉 崇

2019年11月。中国で初めて感染者が発生してから1年が経ちました。この1年で世界中の人々の生活は大きく変化しました。諸外国ではロックダウン(都市封鎖)が敷かれ、家から出られない日々が続きました。日本でも4月半ばから～5月半ばまで緊急事態宣言が発出され、学校は休みになり外出制限を強いられました。一旦は、感染者数は減少したものの、第2波、第3波と感染者数が増加の一途を辿っています。

そもそもウイルスは、全部で3万種類あると言われており、鳥類と哺乳類に感染するウイルスが650種。さらに、1種につき様々なタイプに分類されています。例えば、風邪の原因となるライノウイルスは、110ものタイプがあるとされています。今回パンデミック(世界的大流行)となっているコロナウイルスも6つのタイプに分類されるウイルスで、2002年にこれも中国で発生したSARS(重症急性呼吸器症候群)と同種類のウイルスとなります。元々は風邪のウイルスですので、感染すると呼吸器症状が出現し、重症化すると肺炎となり命を落とす方もいます。新型コロナウイルス感染症感染者を年齢別でみると、20～30歳代の若年層の感染が多いですが、免疫力が低く基礎疾患のある方や高齢者が重症化しやすいため、死亡者は高齢者の方が多くなっています。WHO(世界保健機関)の資料によると、20歳代と比較し、3つ以上の基礎疾患があると重症化リスクは5倍となり、65歳以上では死亡リスクは90倍となっています。

2020年12月、日本では毎日3000人超が感染者として報告されています。昨日話をした知り合いが感染しているかもしれませんし、今すれ違った人が感染しているかもしれません。もう、誰がかかっているかわからない世の中になっています。そのような中、12月7日、当院職員の新型コロナウイルス感染が判明しました。関連する病棟の職員と患者さんのPCR検査でさらに2名の職員が感染していることがわかりました。すぐに、病棟間の患者さんの移動を停止し、職員は防護具を装着して対応にあたりました。病棟は、ゾーニング(感染危険区域と安全区域を分けること)を実施し、職員の手指消毒、適切な防護具の着脱、毎日の環境消毒を徹底的に実施しました。発生から4日後には、病棟や部署が違う職員も含めて約300名のPCR検査を実施し全員の陰性を確認しました。最終発生から14日間、新たな発生は認めず、患者さんへの感染拡大なしという結果で終息となりました。

新型コロナウイルス感染症がすぐそこまで近づいてきていることは感じていましたが、その時は突然やってきます。こうなると、できることは予防しかありません。全員が感染していると考えておこなう感染対策を標準予防策といいます。この標準予防策は、感染があるなしにかかわらず感染対策を実施します。中でも重要なのが手指衛生と个人防护具です。コロナウイルスは、つばなどによる飛沫感染と飛沫が飛んだ場所を触れることで広がる接触感染で感染が広がります。手指衛生は、手指消毒と手洗いの総称で、接触感染を防止するために非常に重要です。コロナウイルスにはアルコールが有効ですので、時々ではなく様々な物や場所に触れる度に手をアルコール消毒してください。また、个人防护具はマスクやフェイスシールドのことをいいます。マスクは、着けていたかどうかで濃厚接触者となるかという判断指標となるほど感染防止に重要な个人防护具となっています。適切に装着していれば濃厚接触者とはならず、感染を受ける危険性も低くなります。感染を広げないためにも人と会話をするときにはマスクは必須です。フェイスシールドは、粘膜むき出しの目を守るためには重要な个人防护具です。目から感染することもあります。むやみに目を触ることで感染する危険性も高くなりますので、手をきれいにしておくことと目を守ることは大切です。

新年となり、年末年始に帰省などで人が多く移動しています。その影響が、1月中旬ごろに感染者急増という形で色濃く表れるのではないかと予想しています。自分を感染から守るため、医療崩壊を防ぐためにも、標準予防策の実施と、県外者との接触時には濃厚接触とならないように細心の注意をする、大人数での会食をしない等の予防を一人一人が心がけていただきたいと思います。



医療法人誠和会 和田病院

〒883-0051 宮崎県日向市向江町1丁目196-1
TEL:(0982)52-0011(代) FAX:(0982)54-1012
ホームページアドレス：<https://wada-hosp.or.jp>

関連施設

介護老人保健施設 メディケア盛年館
和田病院指定居宅介護支援事業所

TEL:(0982)53-8788
TEL:(0982)55-9035

FAX:(0982)53-8780
FAX:(0982)55-9036